

イベントレポート

第二回 圧入工学に関する国際会議

2021年6月19日（土）-20日（日）の両日、ICPE2021 組織委員会／国際圧入学会（International Press-in Association, IPA）（拠点：東京都港区、委員長／副会長：松本樹典）が、2018年9月の第一回大会から約3年ぶりとなる、『第二回 圧入工学に関する国際会議』（英名：The Second International Conference on Press-in Engineering 2021, Kochi, Japan - ICPE2021）を開催しました。

「圧入技術」（静荷重によって既成杭を地中へ貫入する施工技術）を主軸に、各分野の専門家が横断的に取り組む研究分野「圧入工学」の世界的な普及を目指し、国際圧入学会は継続的に国内外での研究発表や出版物の発刊を進めており、第一回大会以降、東京を拠点とした圧入工学セミナーや、ベトナム、マレーシア、タイの3か国にて海外セミナーを開催。出版活動としては、2020年3月に「圧入工法設計・施工指針 -2020年版-」を日本国内にて出版、同年12月には初の圧入入門書“New Horizons in Piling”をCRC Press社（オランダ）より発刊、続いて、第二版となる英語版ハンドブック“Press-in retaining structures: a handbook, Second edition 2020”の出版に向け準備を進める等、精力的に活動を進めてきました。

2021年度（2021年4月～2022年3月）においてIPA創立15周年の節目を迎え、当学会が着実に推し進める圧入工学を基軸とした研究成果の集大成、そして多分野の研究者と技術者の意見交換、学生・若手技術者の活躍の場を提供するため、第二回目となる国際会議を開催いたしました。当初、圧入技術の発祥の地である高知県での開催を予定していた本会議は、世界的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン形式での開催を余儀なくされましたが、高知県や国際地盤工学会（ISSMGE）をはじめとした計27団体からの後援、加えて計2団体からの助成を受け、前回大会を上回る19か国から、総勢430名の方々にご参加いただきました。

本会議は「防災・減災やインフラ整備における圧入工学の発展と社会貢献」をテーマとし、老朽化した社会基盤の維持・管理・更新および新規都市開発に対応した社会基盤の整備、加えて近時ますます激しさを増す自然災害からの脅威の低減等の強い社会的要請を背景に、圧入技術を基盤とした建設機械と施工技術を中核に、持続可能な社会基盤整備の計画・調査・設計に関する研究分野の発展と、効率的な建設機械の開発、施工過程の省力化等、インフラ整備に関わる施工を支える技術の開発や技能者の育成を目的に開催しました。

基調講演では、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）にプログラムディレクターとして参画された藤野 陽三 学長（城西大学）による「インフラの保守整備、改修および管理に関する研究開発」、そして、杭基礎をはじめとして基礎工学の分野において世界的な権威であるMark Randolph 教授（西オーストラリア大学）より、「硬質地盤または軟岩に根入れされた既製杭の先端抵抗に関する設計時の考察」をテーマにご講演をいただきました。また、現況報告として、国際圧入学会の技術委員会TC1, TC2, TC3による最近の研究に関する報告、そして、2日間にわたる一般技術セッションにおいて合計59編の発表が行われ、多くの専門家の知見を参加者と共有するなど、大変有意義な国際会議となりました。

そして本会議の開会式・閉会式では、圧入工学の発展・普及に大きく貢献された方々や、参加者からの投票によって選ばれた優秀発表者への表彰式を執り行い、全体を通して現地開催さながらの充実したプログラム構成での開催を実現できたことで、コロナ禍によってもたらされたニューノーマルな様式にも対応可能であることを実感し、大きな収穫を得られた会議でもありました。ICPE2021組織委員会及び国際圧入学会は、一刻も早くコロナ禍が収束することを祈念するとともに、次回においては海外での現地開催や、オンラインを組み合わせたハイブリッド形式での開催も視野に、より多くの方々にご参加いただけるよう、さらに充実した国際会議となるよう企画していきます。

Welcome & Opening



Tatsunori Matsumoto
Chair of ICPE 2021



Leung Chun Fai
President of IPA



Charles Ng
President of ISSMGE



Seiji Hamada
Governor of Kochi Prefecture



Mamoru Mimura
President of Japanese Geotechnical Society



Katsutoshi Ueno
Chair of Scientific Working Group

Award Ceremony



Andrew McNamara
Chair of IPA Award Committee

Keynote Lectures



Yozo Fujino
Josai University



Chair:
Yukihiro Ishihara



Mark Randolph
University of West Australia



Chair:
Kenichi Horikoshi

State-of-the-Art Reports



Jiro Takemura
Tokyo Institute of Technology

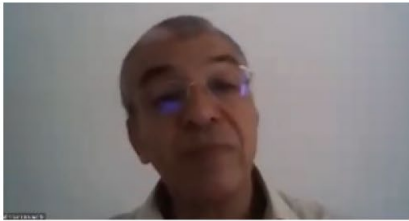
Yukihiro Ishihara
GIKEN LTD.

Jun Otani
Kumamoto University

Chair:
Stuart Haigh

General Sessions (P7–20)

Closing Ceremony



Mounir Bouassida
University of Tunis El Manar



Yoshihisa Fujisaki
Chair of Administrative Working Group

Best Presentation Award



Kojiro Okabayashi
Vice-Chair of Scientific Working Group